

高知県浦戸湾における外来種シマメノウフネガイの初確認
**FIRST RECORD OF INVASIVE SPECIES *Crepidula onyx*
IN URADO BAY, KOCHI PREFECTURE**

By

照屋清之介¹
Shinnosuke TERUYA¹

概要

Abstract

The presence of invasive species *Crepidula onyx* was confirmed for the first time in Urado Bay, Kochi Prefecture via a juvenile specimen. The specimen was attached to a *Chicoreus (Triplex) brunneus* (Link, 1807) which was found in a rocky coastal area at a depth of 3-5 meters. There are two theories of invasion pathway: natural dispersion by ocean currents and introduction via marine vessels. As it is difficult to support the theory of invasion pathway through natural dispersion by ocean current, introduction via marine vessels is more likely.

はじめに

Introduction

シマメノウフネガイ *Crepidula onyx* Sowerby, 1814 は、北アメリカ原産のカリバガサガイ科の貝類であり（奥谷 2000）、日本各地で確認が報告されている（江川 1985; 大谷 2002; 岩崎ほか 2004）。国内からは 1968 年に三浦半島岩浦で最初に確認された（間瀬 1969）。高知県の近隣では、1981 年に徳島県（江川 1985）、1987 年に大分県（浜田 1989）で報告されているが、高知県からは報告されていない。本報告では、浦戸湾からシマメノウフネガイを初報告するとともに、その移入経路について考察した。

材料と方法

Materials and Methods

1. 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院理学系研究科
School of Science, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan.
e-mail: teruya@um.u-tokyo.ac.jp

2015年6月11日に高知県高知市浦戸において、素潜りにより水深3~5mの転石および岩礁域において採集を行った(図1)。若干泥混じりの環境であり、転石を持ち上げると泥が舞い、視界が悪くなるような環境であった。2時間ほどの潜水調査で、7個体のガンゼキボラ *Chicoreus (Triplex) brunneus* (Link, 1807) を得ることができた。

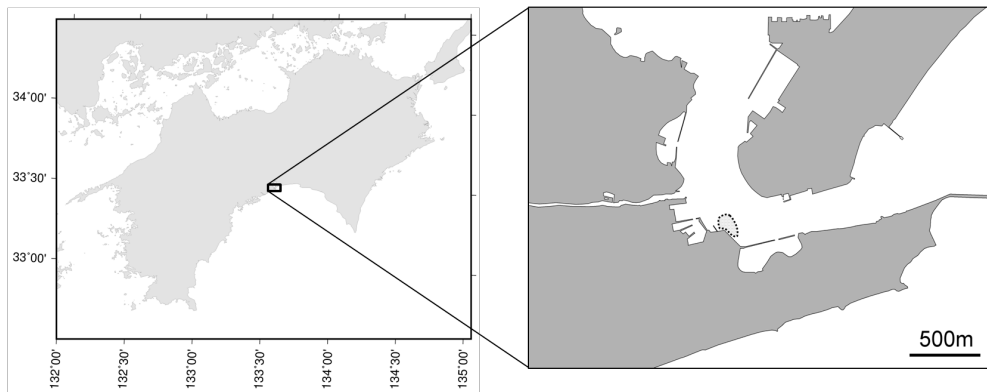


図1. 浦戸湾の採集地。点線で囲まれた網掛け部分が調査海域を示す

Figure 1. Collection site in Urado Bay. The shaded area surrounded by a dashed line indicates the investigation area.

結果と考察

Results and discussion

得られたガンゼキボラを精査したところ、1個体の殻口下部にシマメノウフネガイが付着していることが確認された(図版1A, B)。シマメノウフネガイの殻長は6.9mmであった(図版1C, D)。今回確認された個体は、小型の一個体のみであり、定着しているかは不明である。移入経路については2つのパターンが考えられる。1つは近隣の沿岸からの海流による自然分散であり、もう1つは船を由来としたバラスト水や船底に付着した個体を由来とするものである。浦戸湾の近隣でシマメノウフネガイの分布が確認されているのは、徳島県と大分県である(江川 1985; 浜田 1989)。徳島県から自然分散によって海流を経由するには、黒潮に逆らって分散してきたことになるため、考えづらい。シマメノウフネガイの幼生が着底するまでの期間は約5日であることが知られているため(Zhao *et al.* 2003)、大分県から幼生が自然分散により浦戸湾に到達した可能性は考えられる。しかし、自然分散であれば、浦戸湾よりも大分県に近く、内湾環境である宿毛湾や浦ノ内湾で先に確認されるはずであるが、情報が不足しているため不明である。浦戸湾には、1980年代にコウロエンカワヒバリガイ *Xenostrobus securis*、1982年にイガイダマシ *Mytilopsis sallei* が船舶を由来として定着したことが報告されている(大谷 2002; 岩崎ほか 2004)。自然分散の可能性も否定できないが、他の外来種の二枚貝類と同様にシマメノウフネガイも船舶を由来として移入してきたと考えられる。

謝辞

Acknowledgements

近畿大学の瀬尾友樹氏には、四国におけるシマメノウフネガイの分布状況および文献情報をご教示頂きました。Broward Shell ClubのMinami Sakamoto氏には原稿を校閲して頂きました。厚くお礼申し上げます。

引用文献

References

- 江川和文, 1985. シマメノウフネガイの分布とその伝播状況. *ちりぼたん*, 16 (2): 37-44.
- 浜田保, 1989. 大分県産海産貝類追加目録・1988年. *九州の貝*, 32: 43-47.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・西川輝昭・山口寿之・西栄二郎・山西良平・大越健嗣・小菅丈治・林育夫・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井宏, 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. *日本ベントス学会誌*, 59: 22-44.
- 間瀬欣弥, 1969. 相模で採れたネコゼフネガイ. *ちりぼたん*, 5 (6): 156-157.
- 奥谷喬司, 2000. カリバガサガイ科. In 奥谷喬司 (編) *日本近海産貝類図鑑*, 200-201. 東海大学出版会, 東京.
- 大谷道夫, 2002. 日本における移入付着動物の出現状況, 最近の動向. *Sessile Organisms*, 19 (2): 69-92.
- Zhao, B., Qiu, J.-W. and Qian, P.-Y. 2003. Effects of food availability on larval development in the slipper limpet *Crepidula onyx*. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 294 (2) 219-233.

図版 1 の説明
Explanation of plate 1

図 A. シマメノウフネガイが付着したガンゼキボラ

Figure A. *Chicoreus (Triplex) brunneus* with attached *Crepidula onyx*.

図 B. ガンゼキボラの体層下部. 矢頭はシマメノウフネガイを示す

Figure B. The lower part of body whorl of *C. (T.) brunneus*. The arrowhead indicates *C. onyx*.

図 C. シマメノウフネガイの貝殻

Figure C. The shell of *C. onyx*.

図 D. シマメノウフネガイの軟体部

Figure D. The soft body of *C. onyx*.

